

事前申込  
不要

第135回 東京医療センター

# 地域医療カンファレンス

2019年

6月20日(木) 19:30 - 20:30

東京医療センター1階【病棟会議室】

## シミュレーション医学教育の概要 ～ 普段使いのできる教育技法 ～

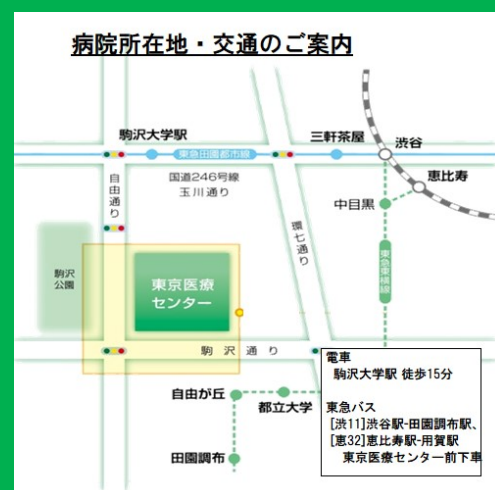
担当：国立病院機構東京医療センター 救急科医長  
シミュレーションラボ副管理室長 鈴木 亮

対象：医療従事者 及び 当院職員

日本医師会生涯教育講座（1単位）

※駐車場ご利用の方は受付にてお申し出ください。  
（無料駐車券をお渡しいたします）

お問合せ 東京医療センター 地域医療連携室  
東京都目黒区東が丘2-5-1  
TEL 03-3411-2595



## 第135回 東京医療センター地域医療カンファレンス

開催場所：国立病院機構東京医療センター 病棟会議室

開催日時：令和元年6月20日（木）19時30分～

テーマ：シミュレーション医学教育の概要 ～普段使いできる教育技法～

担当：国立病院機構東京医療センター 救急科医長, シミュレーションラボ副管理室長  
鈴木 亮

(抄 録)

当院では救急科が中心となり、2004年から院内で日本救急医学会認定のICLS（Immediate Cardiac Life Support）コースを定期的で開催しています。ICLSコースは、「心停止した傷病者に対して最初の10分間に行うべきスキル」を学ぶためのシミュレーショントレーニングコースであり、主たる受講対象は医師およびコメディカルとなっています。当院での開催回数は間もなく延べ100回に達しようとしており、他施設からの参加者も数多くいらっしゃいます。コースのインストラクターを育成するためのICLS指導者養成ワークショップも2013年より院内開催しており、現在は年3回のペースで行っています。ICLSコースでは高性能マネキンを患者に見立て、チームでの蘇生処置を学習します。その際に、受講生の行った一連の模擬診療をインストラクターとともに振り返り（デブリーフィング）をすることで学びが促されます。デブリーフィングの技法としてGAS法・GREAT法・プラスデルタなどの方法があります。いずれも受講生に能動的に振り返りを行ってもらうための技法です。これらの技法は日常業務の中での後進指導や業務改善にも応用できるテクニックです。シミュレーション医学教育というと「高価・高性能なシミュレーターを使った急変対応を学ぶ大掛かりなもの」というイメージがあるかと思いますが、患者接遇や身体診察といったシンプルなテーマで行うこともあります。むしろ、「日常業務の中での問題点を解決するためのツール」として捉えていただければと考えています。対象となる場も、病院だけではなく診療所や往診先の現場など、およそ医療に関係する場所はすべてと言ってもいいでしょう。当日は、シミュレーション医学教育の概要を具体例も交えてご紹介させていただければと思います。

### 【経歴】

平成9年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業

国立東京第二病院（現：国立病院機構東京医療センター）初期研修医

平成11年 国立病院東京医療センター総合診療科（現：国立病院機構東京医療センター総合内科）  
後期研修医

平成14年 国立病院機構東京医療センター救命救急センター（現：救急科）医員

平成31年 国立病院機構東京医療センター救急科医長

### 【学会】

日本救急医学会（専門医） 日本内科学会（認定医・総合内科専門医・指導医）

日本プライマリ・ケア連合学会（認定医・指導医） 日本医療教授システム学会

### 【資格】

日本救急医学会認定ICLS指導者養成ワークショップディレクター

日本内科学会認定JMECCディレクター